

多良間村におけるアオリイカ産卵礁設置について

宮古支庁産業振興課 鳩 間 用 一

1. 目 的

多良間島周辺海域はアオリイカの好漁場となっており、平成7年の多良間村の統計で1.5tの水揚げがあり、重要資源になっている。そこで多良間村ではアオリイカの産卵礁を設置し資源の維持増大につとめ、効果的な活用及び資源管理の啓蒙普及をはかるとともに結成したばかりの多良間支部活動の活性化のため、アオリイカの産卵礁を設置する。

2. 協力機関

平良市漁協多良間支部（参加者17名）
多良間村役場経済課
宮古支庁産業振興課

3. 日 程

平成8年4月9日（産卵礁製作と設置場所選
定）
10日（産卵礁設置）

4. 設置場所

普天間港地先（15基）
前泊港地先（10基）
多良間港地先（17基）

5. 材 料

車のホイール（重石にする）
基質としてシャリンバイの枝、ススキ、笹、
モズクの高網

6. 作業経過

平成8年4月9日（火）
午前11時頃から支部員14名が集合し、基質と

なるシャリンバイ、ススキを切り出し普天間港に材料を集め、午後2時から作業を開始した。最初にあらかた説明をすると支部員は一斉にイカ柴製作に取りかかった。

柴を立たすために、重しはダンプのホイールを使用した。

産卵礁を1基作成するのに約15分程度でこの日は15基製作した。

製作した産卵礁は、塩と御神酒で厄拭いし、普天間港地先の水深約3m程の砂地に設置した。

産卵礁投下後は吉川区の公民館で反省会をおこない産卵礁の成功を祈願した。

平成8年4月10日（水）

午前9時に前泊港に集合し、再びイカ柴製作に取りかかったこの日集まったメンバーは17名、昨日よりも3人増えてイカ柴に関する興味の深さがうかがえた。

基質として用意したシャリンバイもなくなったころ部員の一人が笹でも試してみようと言いつ出し、笹を切り出してきて基質に使用した。またモズクの高網も使用した。午前中で28基製作し、前泊港地先で10基、多良間漁港地先に178基投下した。

9～10日の2日間で合計42基設置した。

7. 産卵状況調査

多良間支部の会員が1カ月に2回の割合で産卵状況の調査をおこなう。

